北杜市

BCGワクチン予防接種を受ける前に

1　病気の説明

BCGは結核を予防するために接種するワクチンです。結核は、結核菌という細菌が体の中に入ることによって起こる病気です。結核菌は主に肺の内部で増えるため、咳、痰、発熱、呼吸器困難など風邪のような症状を呈することが多いですが、肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳等、体のあらゆる部分に影響が及ぶことがあります。特に小児では全身に及ぶ重篤な結核につながりやすいと言われています。

結核は毎年新たに18，000人程度の患者が発生しており、日本は結核の低まん延国ではありません。

2　ワクチンの説明

BCGワクチンを接種することで、結核の発症を52～74％程度、重篤な髄膜炎や全身性の結核を64～78％程度予防できると報告されています。また、一度接種すると、効果が10～15年程度続くと考えられています。

●副反応

〇接種から約2週間経つと、針の痕に一致して発赤や硬結が生じ、その後化膿してかさぶたを作ることがあります。このような反応は、BCGワクチン接種後には一般的にみられるものであり、特に接種後5～6週頃に最も強く現れるとされています。ただし、接種後1週間～10日以内に同じような症状が発現した場合には「コッホ現象」が疑われるため、速やかに受診してください。
〇リンパ節の腫れや局所・全身の皮膚症状等の比較的軽度な局所反応が、一定頻度でみられます。
〇重篤な副反応として極めて稀に、骨炎や全身性のBCG感染症、アナフィラキシーがみられます。

●コッホ現象について

結核もしくは結核菌に似た菌に感染している人がBCGワクチンを接種した場合、接種してから1週間～10日以内に針の痕に一致した発赤や硬結、化膿してかさぶたが作られる症状がみられます。一種のアレルギー反応によるものと考えられていますが、このような現象を「コッホ現象」と呼びます。速やかに接種医療機関を受診してください。

●接種の標準的な時期　合計1回接種する

生後5か月から8か月の間に接種します。